

第9回アカデミープレジデント会合（APM）会合概要  
Academy of Science Presidents' Meeting

日時：平成28年10月2日16時50分～18時50分

STS フォーラム（10月2～4日）期間中に開催

場所：国立京都国際会館（Room104）

主催：日本学術会議

出席者：16名（15か国16名）

（内訳）キューバ、フランス、ドイツ、インド、インドネシア、韓国、ラトビア、パキスタン、ポーランド（2名）、スロバキア、スーダン、タイ、英国、米国、日本

議長：大西 隆 日本学術会議会長

Sakarindor Bhumiratana タイ科学・技術アカデミー（TAST）会長

テーマ：科学アカデミーはどのようにソーシャルイノベーションを促進させることができるか。

出席者による自己紹介の後、本会合のテーマであるソーシャルイノベーションに関する短いプレゼンテーションがなされた。

ソーシャルイノベーションは人類の発展のための資源であり、社会問題に対応するためのツールであるという考え方が紹介され、また、私たちの社会がどこに向かうことができるかを決定するものでもあると言及された。

すべての参加者がソーシャルイノベーションは社会に対して科学技術をより良く適応させる必要不可欠なツールであるという考えに、参加者全員が合意した。

理想とする社会を実現させるための科学アカデミーの役割含む、以下の側面が近況とともに示された。

## 1. 政府との関わり

（1）科学アカデミーは、政府、大臣、政策立案者、及びその他関連公共部門に対して科学アドバイスを提供する。

・いくつかの先進国では、科学アカデミーは政府、大臣、政策立案者、その他関連公共部門への科学アドバイザーとしての立場がすでに確立されている。一方、主に発展途上国ではソーシャルイノベーションの重要性に加え、科学技術及び、科学イノベーションの重要性についても政府の関心を高める必要がある。

（2）基礎科学技術のための政府予算の推進

・発展途上国の多くは基礎科学技術が社会の向上のために重要であることについて政府の理解を得ることの難しさに直面している。それゆえ、発展途上国では、科学技術の基礎研究に関するプロジェクトの予算は極めて不十分である。

・先進国でさえ、科学技術の基礎研究に関するプロジェクトの政府予算を増加

させることができた科学アカデミーはほんの一握りである。

## 2. 科学者コミュニティへの支援

### (1) 基礎及び純粋科学、人文科学、ライフサイエンス、工学間でのコラボレーションの推進

・科学アカデミーによっては、自然科学、ライフサイエンスに加え、社会科学、人文科学部門を擁している。

・本会議に出席した科学アカデミーの大半は自然科学、ライフサイエンス、工学に加え、社会科学、人文科学間での密なコラボレーションの重要性を認識している。

・これに反し、大学における社会科学、人文科学部門の合理化・縮小といった方針が政府により示された国もある。

### (2) 将来のキャリアパス問題への対応

・国によっては、科学アカデミーが、優秀な科学者に科学アカデミーのメンバーシップや賞を与えることによる雇用機会増加のための取り組みを充実させている。

### (3) 科学コミュニティの多様性を高めるためのサポート

・若手科学者、女性科学者、発展途上国の科学者の数を増やすことなどによって科学コミュニティの多様性を高めることにより、科学と社会に対し多様な見解やアイデアを投入することができる、という点が強調された。現時点では、この点は未だ対応が必要な状況である。

### (4) 優先すべき科学プロジェクトへの支援

・科学アカデミーは、ソーシャルイノベーションを適切に促進するために優先すべき必要不可欠な科学プロジェクトを支援する役割を担うべきであることが示された。現時点では、この点は未だ対応が必要な状況である。

## 3. 科学技術を支援するためのプラットフォームの強化

### (1) 科学リテラシーの改善のため、適切な科学教育を全ての学生に与え、かつ自由な発想に基づく(Curiosity-driven)科学教育を導入するために、根拠に基づく適切な科学教育のための教育者の教育を推進する。

・特に、発展途上国では、優秀な科学の教員を育成することの重要性に加え、科学リテラシーを高めるための科学教育の推進にフォーカスをあてるべきである。

・国によっては、科学アカデミーは、学生が科学技術に興味を持つための機会を提供している。

・遠隔地の学生にとって ICT (Information and communication technology) は欠くべからざる役割を担っていることが述べられた。

#### 4. 一般市民と科学アカデミーとの関係

- (1) 科学技術を通し、イノベーションから得られた利益を一般社会に還元するためのインフラ構築
  - ・特に、発展途上国において、上記のようなインフラ構築が不十分である。
- (2) ソーシャルイノベーションを一般社会へ適切に適用させるためのメディアやジャーナリズムの投入
  - ・科学技術に加え、ソーシャルイノベーションの利益を一般市民に対して広く拡散させるためには、科学アカデミーによる科学の啓蒙のみでは不十分である。それゆえに、現在では様々な状況において、多くの国でメディアとジャーナリズムが積極的に投入されてきている。
- (3) ソーシャルイノベーションを適用させる際の一般市民の取り込み
  - ・ソーシャルイノベーションを一般社会に適用させる際には、政府や科学アカデミーを始めとする利害関係者をより強く関与させるべきであることが本会合で示された。一般社会の関与が不十分であったこれまでの事例では、予期せぬ結果がもたらされてしまったということである。

(了)